

C-57 近世以降に於ける農民服飾の研究—被服工作上よりみた勞働着(四)
和洋女大文藝部 菅司 論

目的 農業国であつた我國に於て、農民服飾はその重要な文化要素である。その特性を明らかにすることは各地域社会の性格や文化交流ルートを知ることに資する。その目的から被服工作上に現れたその特性を究明するのが本研究のテーマである。

方法 本厚服装研究所施の調査報告、雛形、標本并に各地緊急調査報告と主要資料として使用した。

結果 中国地方の縫製上の特長を明らかにした。その主な形態は男の股弁、女の襟巻であるが、山の人々の中には裾裁の使用が増加する。又関西以西の袴裁としてパンツの語が使われるのもこの地に分られる。カルサシの分布も享地帯にまで至っている。又上巻の袖は単純な筒袖の基本であるが中国山脈から日本海側へより複雑な形のもの